

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ディンディグル県近郊における、有機農業の知識・技術普及と有機農産物市場の開拓を通じた農業生産性向上と農家・農業労働者所得向上
(2) 事業内容	<p>(ア) 治水工事：農地周囲の堤建設・堤強化の草敷設については、予定していた560haの農地に建設を完了した。農業貯水池については3つの貯水池を設置したが、農民の希望により、貯水池の大きさをそれぞれ予定より大きくした。これによりかかった経費は農業貯水池を作った土地の所有者の自己負担でまかなわれた。チェックダムについては予定通り1基を完成した。また表土流出防止の植林のため3000本の苗木配布を完了し苗木を受け取った農家各自が植林を行った。</p> <p>(イ) 有機農業技術支援：①有機農業研修：予定していた2カ村でそれぞれ1回ずつ研修を行い、デバトール村では118名、コタヤム村では102名が参加した。当日は、まず有機農業の重要性に関する講義を行い、その後実際に有機肥料や有機農薬を作る実技研修を行った。②モデル有機農家育成：有機農業研修後の試験結果をもとに30名のモデル有機農家を選定した。この30名には研修で作成したものと同様の有機肥料や有機殺虫剤の現在料及びバケツ、果樹の苗木の配布を完了した。</p> <p>(ウ) 有機農産物販売支援：①30名のモデル有機農家を対象とした「参加型有機認証制度 (Participatory Guarantee System: 以下 PGS)」の研修を開催した。この研修では PGS とその有機農産物販売における有用性についての紹介を行った。また視察研修では30名のモデル有機農家が Key Stone という NGO を訪問し、PGS の専門家による講義を受けたり、実際に PGS を利用している農家の農地を訪問したりした。視察研修終了後に実施した PGS の理解度試験では90%以上のモデル有機農家が80%以上の成績をおさめた。</p> <p>現在は、モデル有機農家のグループを組織している。事業計画当初はモデル有機農家5名ずつの6つの活動グループを組織する予定であったが、デバトール村のモデル有機農家15名、コタヤム村のモデル有機農家15名、の2つの活動グループを組織する方向で調整中である。</p>
(3) 達成された効果	<p>(ア) 治水工事</p> <p>事業内容を予定通り完了した。堤や農業貯水池では5月の降雨の際に実際に水が溜まっている様子が観察できた。今後10月、11月の本格的な雨季を迎え、その後には井戸水の水深および土地の耕作可能面積の増加が観察されるはずである。</p> <p>(イ) 有機農業技術支援</p>

	<p>当初の予定（200名）よりも多い、計220名の農家・農業労働者に対して有機農業研修を行い有機農業の知識を伝達することができた。研修後の理解度試験では8割の参加者が7割以上の得点を得た。モデル有機農家の中には既にほとんどの化学肥料の購入を止めた農家もある。（最終的な効果については終了時調査で確認する。）</p> <p>（ウ）有機農産物販売支援</p> <p>PGSの研修と視察訪問を通して、30名のモデル有機農家がPGSの有用性と運用方法を理解した。これにより有機農業参入への不安が軽減された。視察訪問後の理解度試験では9割が8割以上の得点を得た。</p>
<p>（4）今後の見通し</p>	<p>10月および11月の雨期の後には雨水が堤や農業貯水池、チェックダムなどの各種設備によって蓄えられ地下に浸透し、井戸の水深増加や耕作地面積の増加といった成果に結びつくことが予想される。また、流水域開発委員会は、各種設備のモニタリングを行いつつ、設備の作り方や直し方のマニュアルを作成し設備利用の持続可能性を高める。</p> <p>また、雨期にはモデル有機農家が有機農業を開始するため収集的なモニタリングを行い病虫害の発生などを早期に見出し対応することに努める。さらには、有機農家の生産物を12月に開催予定の有機農産物販売促進交流会（モデル有機農家の減農薬産物の試食会）で紹介して販売ネットワークを構築していく見通しである。</p>